

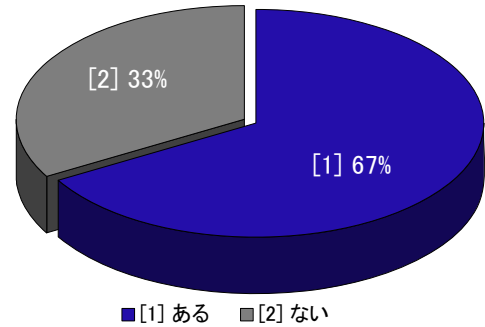
# 「地域防災力アンケート」結果まとめ

回答数 2484/3211 (回答率77%)

## 【地域の状況について】

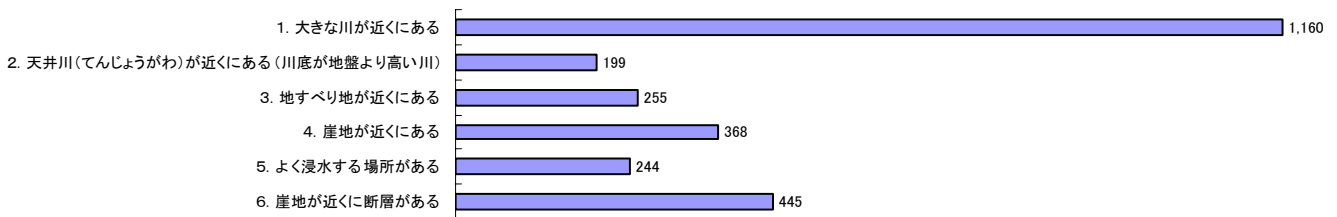
■ 自主防災組織の組織率は67%で、ない自治会でも7割以上の自治会が必要と考えています(問6, 問10)。

一方、組織の構成としては、自治会役員とは別の専任役員からなる組織が2割以下で(問8)、役員の任期も1年が最も多い状況です(問9)。

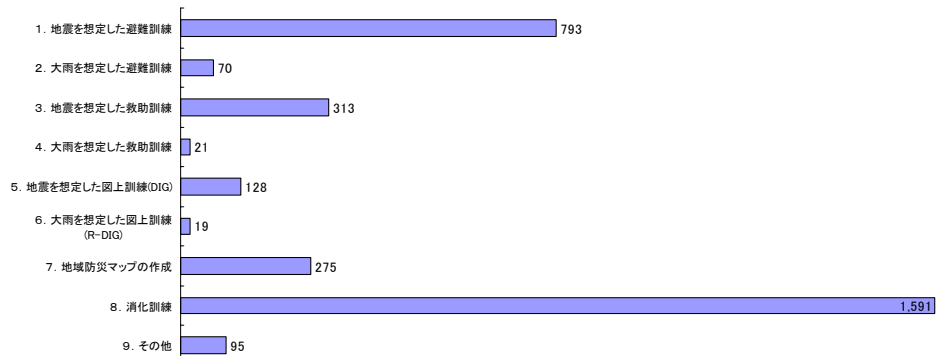


(問6) 自主防災組織の有無について

■ 多くの自治会は、「大きな川が近くにある」と回答しています(問4)。防災訓練については、毎年もしくは時々実施している自治会が7割を超え(問11)、そのうち5割近くの自治会で半数以上の住民の参加があります(問13)。一方で、訓練内容は、消火訓練や地震を想定した訓練が中心で、大雨を想定した訓練を実施している自治会はごくわずかです(問12)。

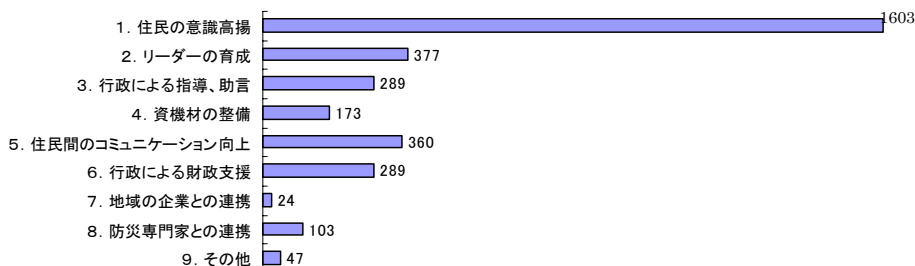


(問4) 地域の身近な地形



(問12) 自治会で実施している訓練の内容について

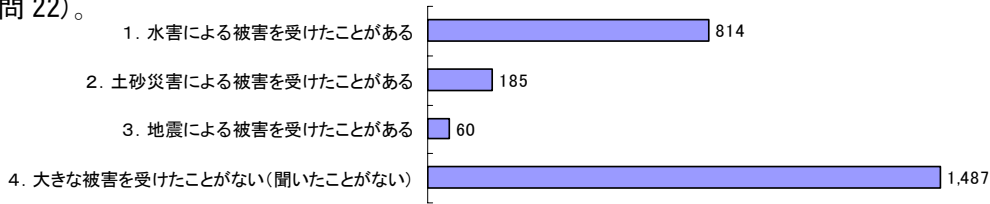
■ 自治会の防災力を高めるために必要なこととして、「住民の意識向上」を挙げる自治会が圧倒的に多い結果となっています(問19)。



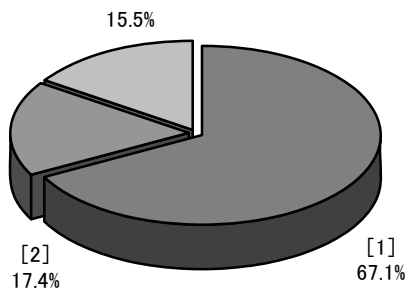
(問19) 自治会の防災力を高めるために必要なことについて

## 【被災履歴について】

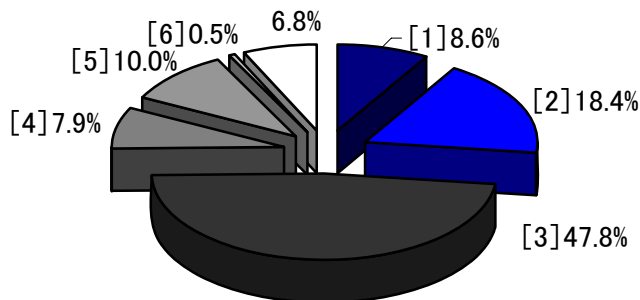
■洪水を含む大きな自然災害を受けたことがない自治会が6割以上にのぼり、自然災害のうち水害による被害は、多くの自治会で経験されています(問21)。被災を受けたことのある地域では、6割以上で被災経験者はいると答えています(問26)、「若い人や新住民は過去の被災を知らない」と5割近くが答えています(問22)。



(問21) 地域の災害経験について



■ [1] 被災を受けた経験者がいる  
■ [2] 被災を受けた経験者はいない  
■ 不明・無回答

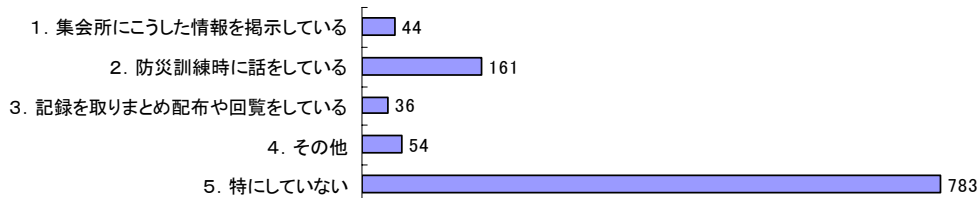


■ [1] みんなが知っていると思う  
■ [2] だいたいみんなが知っていると思う  
■ [3] 若い世代は知らないと思う  
■ [4] 新住民は知らないと思う  
■ [5] ほとんど知らないと思う  
■ [6] まったく知らないと思う  
■ 不明・無回答

(問26) 地域の被災経験者について

(問22) 地域の災害経験の認知度について

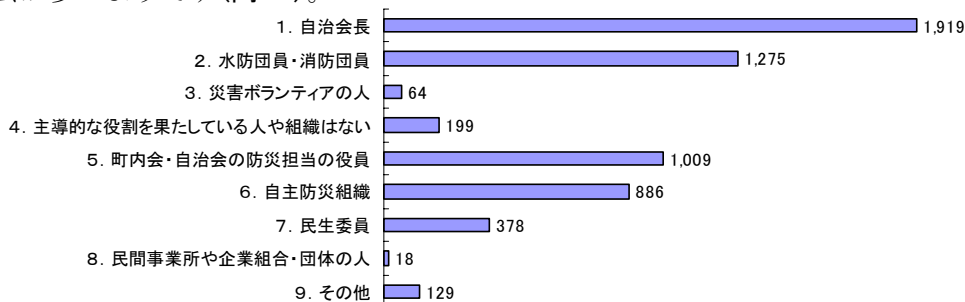
■被災経験のある自治会のうち、被災体験の伝承方法は「言い継ぎ・言い伝え」が最も多く(問23)、これらの伝承を住民が共有できるような工夫を「特にしていない」自治会が8割を超えています(問24)。



(問24) 被災記録の伝承について

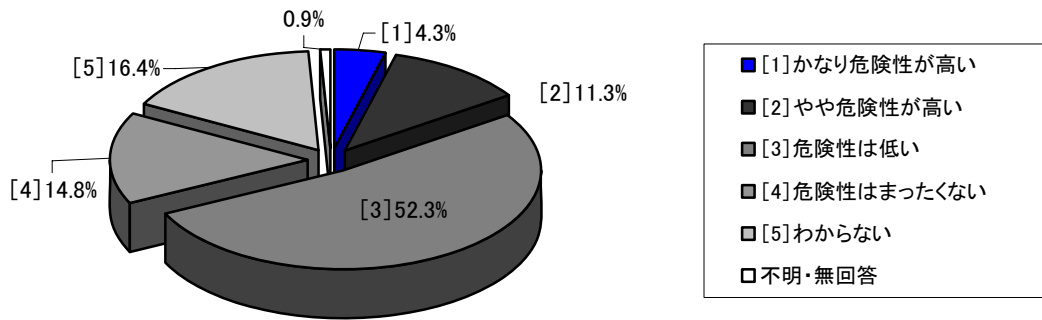
## 【水害に対する意識について】

■水害に関する防災活動では、自主防災組織ではなく自治会長や水防団員が主導的な役割を果たしている自治会が多いようです(問27)。



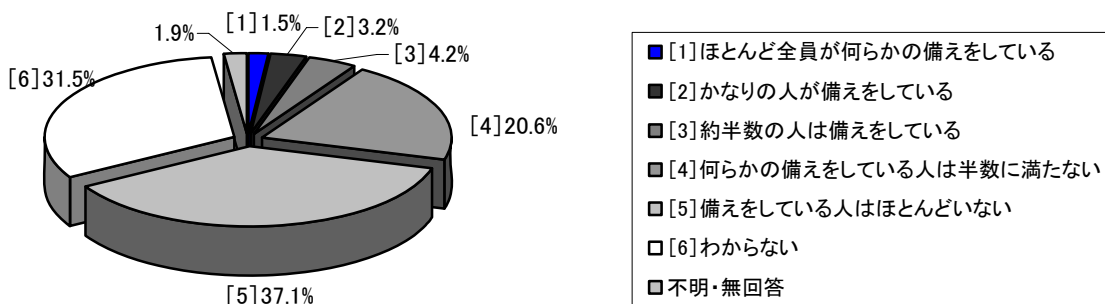
(問27) 水害に関する防災活動の主導的な役割について

■家屋が浸水するような水害に対しては「危険が低い」もしくは「危険がない」と考えている自治会が7割近くとなっています(問31)。



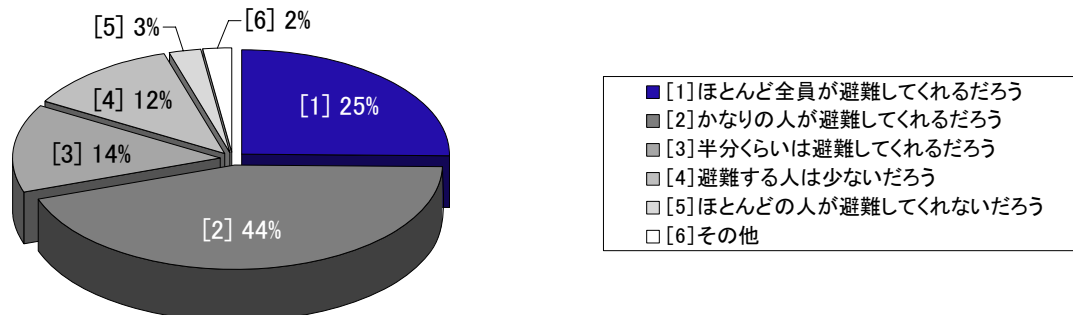
(問31) 危険の認知度について

■水害への備えをしている住民が半数以上であると答えている自治会は1割以下となっています(問33)。水害に対しての対策や水防訓練を全く行っていない自治会が多い状況です(問32、問34)。また、水防訓練を行っている自治会でも半数近くが「参加はほとんど役員だけ」と回答しています(問35)。



(問33) 水害に備えている住民の割合について

■水害が発生する危険が高まった場合に、自治会内への連絡方法は、戸別訪問、電話連絡が多くなっています(問38)。危険がある地区の人に「避難の呼びかけができない」と考えている自治会は約1割ですが(問39)、その主な理由は「体制が整っていないこと」です(問40)。また、自治会あるいは自主防災組織が自主的に避難を呼びかければ、「ほとんど全員」もしくは「かなりの人」が避難するだろうと7割近くの自治会が回答しています(問42)。



(問42) 避難の呼びかけに応じる住民の割合について

**留意事項:**本概要版の回答項目の標記は、実際のアンケート時の回答項目を一部簡略化して標記しています。

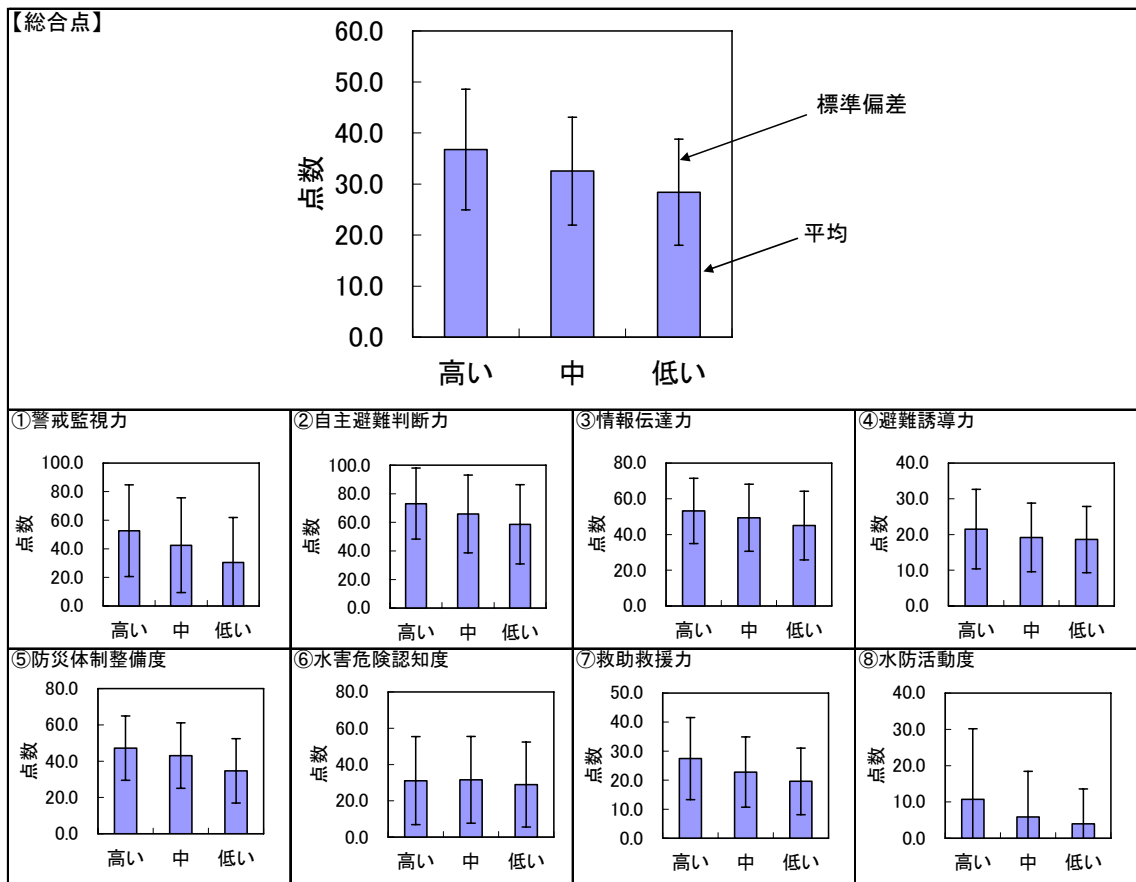
# 「地域防災力アンケート」結果

## —地域状況と地域防災力評点の比較—

地域防災力アンケートの「I. 地域の状況について」における回答内容とアンケートの採点結果（地域防災力評点）を比較した。

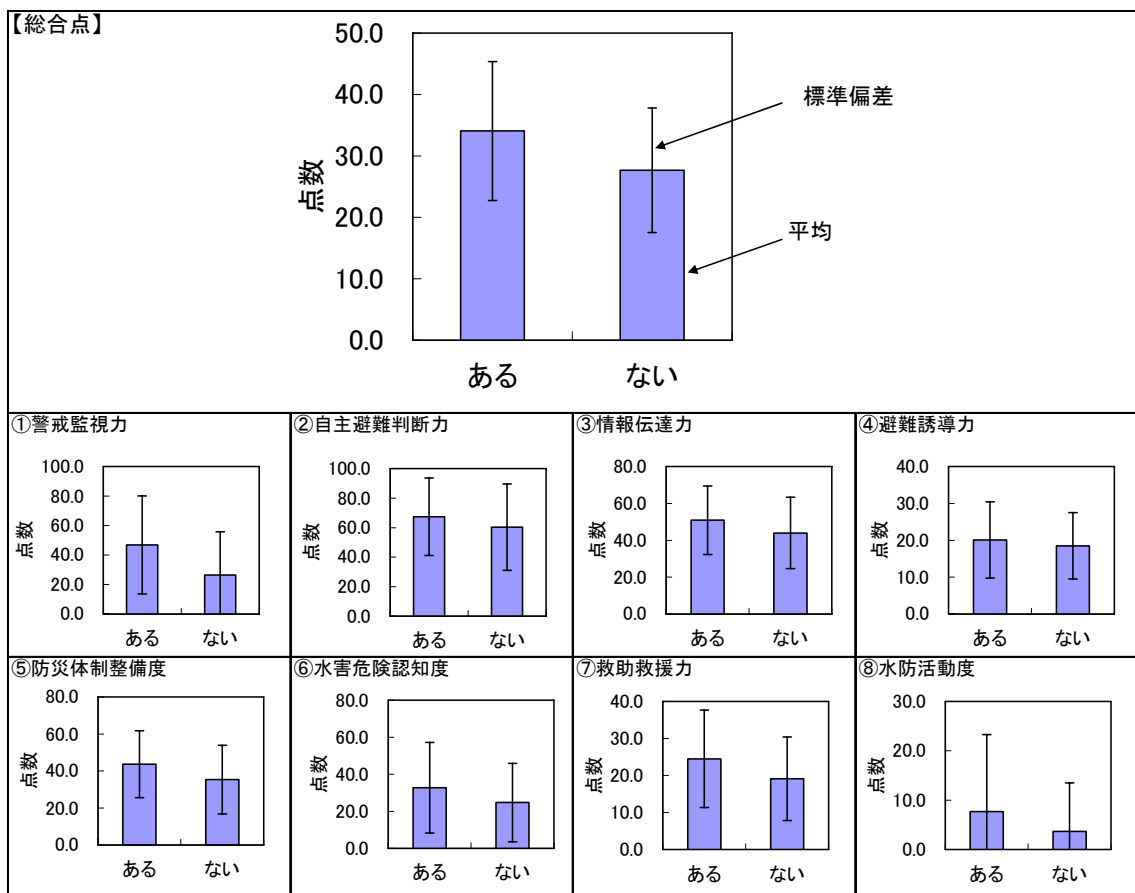
### 1. 地域活動の活発さによる比較

- ・ 問2および問3の回答から地域行事の活発さを「地域活動度」として点数化し、地域活動度の高低と地域防災力の評点を比較した。
- ・ 総合点を比較すると、地域活動度が高い地域ほど高得点となる傾向が見られる。
- ・ 構成要素別の比較においても、地域活動度が高い地域ほど高得点となる傾向が各構成要素で概ね見られる。



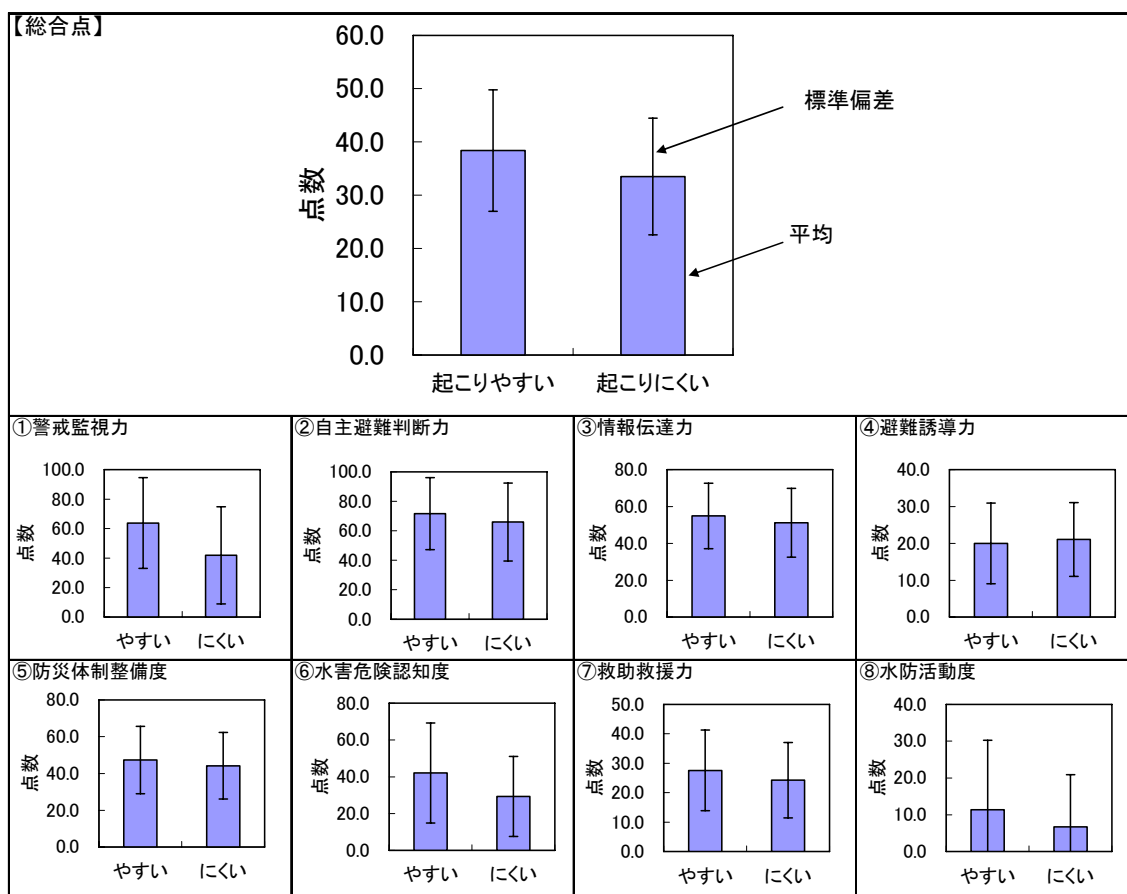
## 2. 危険地形の有無による比較

- ・問4において、「何らかの危険地形が身近にある」と答えたグループと「特にない」と答えたグループとで、地域防災力の評点を比較した。
- ・総合点を比較すると、「身近に危険地域がある」と答えたグループの方が高得点となる傾向が見られる。
- ・構成要素別の比較においても、「身近に危険地域がある」と答えたグループの方が高得点となる傾向が概ね見られている。



### 3. 身近な川に対する印象の違いによる比較

- ・問5における身近な川に対する印象で、「洪水が起こりやすい」と答えたグループと「洪水が起こりにくい」と答えたグループとで、地域防災力の評点を比較した。
- ・総合点の比較では、「洪水が起こりやすい」と答えたグループの方が高得点となる傾向が見られる。
- ・構成要素別の比較においても、「洪水が起こりやすい」と答えたグループの方が高得点となる傾向が概ね見られ、特に、①警戒監視力および⑥水害危険認知度では比較的はっきりとした差が現れている。



#### 4. 災害経験の有無による比較

- ・ 問 21 おいて、「何らかの自然災害を受けたことがある」と答えたグループと「受けたことがない」と答えたグループとで、地域防災力評点の分布傾向を比較した。
- ・ 総合点の比較では、「何らかの自然災害を受けたことがある」と答えたグループの方が高得点となる傾向が見られる。
- ・ 構成要素別の比較においても、「自然災害を受けたことがある」と答えたグループの方が高得点となる傾向が概ね見られ、特に、①警戒監視力において点数分布に顕著な差が見られる。

